

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 10月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400243
法人名	有限会社恵
事業所名	グループホームめぐみ
所在地	甘楽郡甘楽町善慶寺900-12 (電話) 0274-74-7708

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年10月8日

【情報提供票より】(平成20年 9月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9人, 非常勤 2人	常勤換算7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 280円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 930円		

(4) 利用者の概要(9月 20日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・細谷病院・小幡医院・あらい歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「和顔愛語」を理念として、優しく思いやりのある介護を心がけている。職員は、常に入居者が生きがいを持ち、自立出来るように身体介護と共に心のケアを考えている。特に役割、楽しみごと、気晴らしの支援については、工夫を凝らしている。歌、体操、ハーモニカ、ドリルなど個々にあわせて能力の活用を図るものや名前を書き続けるなどの生活力の向上に努めている。日々の生活を楽しく希望にそよう生活歴を重視しながら、地域とのふれあいを考えた支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題の避難場所については、地域への協力を求めている。ペットボトル、消毒液や洗剤の保管については棚を作り改善を図っている。地域の人達の交流の場となることや地域との協力体制づくりには、具体的な取り組みをしていない。ホームが、地域の人達の利用できる場となり、尚且つ災害時に協力が得られるように、地域の方々との交流を深め協力体制が出来るような取組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者と職員が対処方法を検討し、日常の業務実践に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの現況、主な行事報告、認知症についての資料提供、外部評価についての報告であり、また送迎費用についての意見交換などを行っている。今後も、事業所の運営やサービスの質の向上についてさまざま方からの意見をいただき、それらの意見を具体的に活かしていくことを期待する。そのためにも、家族の出席の検討をしていただきたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安については、職員が面会時に行事の通知をする等本人や家族からの意見が出せるようコミュニケーションを図り、運営に反映されるよう取組みをしている。また、苦情窓口を書類に明示し、入居時に家族等に説明をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>現在、近隣の人達や、顔見知りの人達が、ホームへ寄ってくれるようになっている。散歩で知り合った方が手品をしてくれたり、大正琴の演奏で慰問をしてくれる等交流が行われている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアの具体的イメージとして(1)入居者の尊厳の確立、本人本位の介護 (2)身体介護を精神的介護の充実へ (3)和顔愛語 を目指し理念としている。今後、更に見直しを検討している。	○	地域密着型サービスとしての地域で安心した継続性のある暮らしを目標とした地域との繋がりを表現した理念を検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、会議で話し合い理念の意識を高めている。職員で勉強会を行い6年目になり、マンネリにならないよう、靴下の変え方や入浴についてなど具体的に見直しを行い、理念である「和顔愛語」優しく思いやりある介護を心がけている。時には会議を3時間延長し協議をしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会費を払い、地域との接点を図るようにしている。清掃事業などは、町内の方の手伝わなくても良いという思いやりに甘えている。近くの人達や顔見知りの人達が寄ってくれるようになり、散歩で知り合った方が手品や大正琴の演奏で慰問をしてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者、職員は、評価の意義を理解している。前回の改善課題の避難場所については、地域への協力を求めている。ペットボトル、消毒液や洗剤の保管については棚を作り改善を図っている。地域の人達の交流の場となることや地域との協力体制づくりには、具体的な取り組みをしていない。	○	ホームが、地域の人達の利用できる場となり、尚且つ災害時に協力が得られるように、地域の方々との交流を深め協力体制が出来るような取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回開催している。出席者は、区長、民生委員、老人会代表、行政であり、利用者家族は出席されていない。議題は、ホームの現況、主な行事報告、認知症についての資料提供、外部評価についての報告であり、また送迎費用についての意見交換などを行っている。	○	運営推進会議では、今後も事業所の運営やサービスの質の向上についてさまざま方からの意見をいただいて、それらの意見を具体的に活かしていくことを期待する。そのためにも、家族の出席の検討をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、報告書の提出が求められているので、役場の健康課介護保険係に月の現況報告をしている。また、電話で要支援2の場合について、空室の問い合わせ、権利擁護後見人制度について研修について話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の支払いは、家族に来所をお願いし手払いとしている。その際に、ケアプラン関係の相談、暮らしぶりや金銭管理の支払い報告、訪問販売の希望購入の連絡と報告などを行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を書類に明示し、入居時に家族等に説明をしている。面会時には意見が開けるように、行事の通知をするなどしてコミュニケーションを図っている。家族から「ドリルを多くしてください」などの意見に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、入居者へのダメージを防ぐために挨拶や紹介を行っている。また、家族が来た時に報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務1～2年の職員は県認知症基礎研修に参加し、管理者は管理者、リーダー研修などに参加している。職員には研修案内を知らせ希望を聞き、資格を取れるようにすすめている。介護の質の向上に、施設内研修が必要と考え図書の整備をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の交換交流を行い、交流研修、1日見学研修、時間研修等に一人年一回以上は参加するよう予定している。研修後は、会議で研修報告をし、介護記録の記録方法などを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始は、見学を行ったり、体験入居を2～3日していただく場合もある。また、自宅、病院、他の施設などに代表者や管理者が出向き面接を行いながら、入居者のこれまでの様子の把握に努め、入居者が不安を抱えないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、レクリエーションを通して、入居者から昔の話を聞いたり、しめ縄の飾り方などの慣習行事、やきもちの焼きかた、竹の子の皮のむき方など教えてもらっている。また、「感謝の気持ちを忘れないこと」などを学び、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩に出たり、ハーモニカを上手に出来る入居者には大人用のハーモニカを購入したり、歌の上手な入居者には出番を多くする機会を設けたりするなど、好みや力を活かした支援をしている。また、ドライブが好きな入居者が外出できなくなり、外に出たい希望を言えない時にも、職員は今までの習慣で希望を感じ取るようにし支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人や職員からの話や意見を聞き、家族の意見は土曜や日曜の面会時にあわせて意見を聞いている。それらを基に職員会議で話し合い、介護計画の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3～5ヶ月に1回の修正をしている。モニタリングは、2～3ヶ月に行っている。また、必要に応じて職員等と話し合い、家族の了承を得て随時計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のデイケアの送迎や理美容送迎、また自宅の状況を見に行きたいという入居者には連れて行ったり、自宅の中を見て荷物を持って帰ることなどに付き添ったり、病院送迎や診察の聞き取りなど入居者の希望にあわせて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医は、事業所の協力医となっており、入居時に家族の納得を得ている。状況により、職員が受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りをしてきている。重度化した場合の問題解決に向けての対応の話し合いを、協力病院、計画作成者、家族等と行い同意を得て、訪問看護を受けながら支援している。全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけない言葉かけに注意している。トイレへの誘導の仕方、着替えは自室で行う等対応している。記録はホールか事務室で行い、事務室で保管している。個人情報は、会議で職員に守秘義務があることを説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は、本人の意思で自由にドリルやしりとりなどを行っている。寝ていたい入居者は遅く起きたり、食後すぐに自室に戻るなど個々のペースで、希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は嚥下注意な入居者や好みによりおかゆや軟材を提供したり、行事には赤飯などを提供している。今日の食事はどうだったかなど希望を良く聞き、注文に応じ調理している。テーブル拭き、皮むき、いんげん下ごしらえなどの手伝いを職員と一緒にしている。お茶碗、湯のみ、はしを自宅から持って来たり、食事が楽しめるものになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月火木金のなかで週2回行っている。しかし、毎日入る入居者や入浴日以外で汚れた時に入浴するなど、希望にそって支援している。また、嫌がる入居者には、「呼んでるよ」と誘導したり、足湯を行ったり、清拭するなどして支援している。季節には、ゆず湯を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌ったり、ハーモニカをふいたり、俳句、川柳、写経をしたり、個々の楽しみを活かして支援している。また、散歩の時に車椅子を押してもらったり、ゴミを出しながらドライブに行ったり、報告書の提出に付き添ってもらったり、自分の部屋に入浴の希望日を書いたり、買い物に行くなど、力を活かせるよう支援し、特に力を置いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見、リンゴ狩り、梨狩り、ぶどう狩り、もみじ狩りなど季節毎に出かけたり、妙義にドライブに行ったり、周辺の花を見る散歩に出たり、物産センター祭りに行くなど希望にそった支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	代表者をはじめ全ての職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。玄関、西の出入り口は、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による避難訓練は、年2回行っている。火災通報、避難訓練に、入居者も参加している。現在、避難経路を改修検討している。地域の人々の協力には、文書を持って災害時の協力の挨拶にまわるなど働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯、お粥、うどん等の主食の量や食量は、介護記録に記載し1日1500～1600カロリーを目処にしている。水分摂取を嫌がる入居者には、飲み物を変えて援助している。栄養の状態に応じては、総合栄養剤を飲用としている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールが続き、キッチンよりホールが見えてオープンになっている。トイレは居室の左右に2ヶ所、車椅子で入れる広さであり、洗面所も2ヶ所ある。柿やあけびなどの季節の果物がテーブルに置かれ、外出時の写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドが備品として備えられているが、ベッドをはずしてマットレスや布団にするなど、身体状況やこれまでの生活習慣にあわせて過ごせるように支援している。椅子や位牌などが持ち込まれ、壁には写真、絵、俳句、写経などが掛けられている。		